

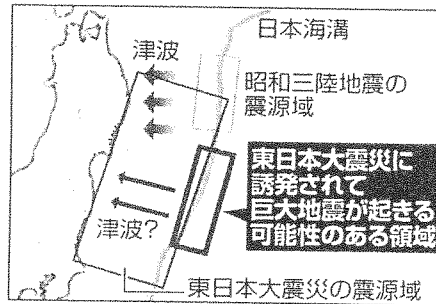
震源域東側 M8級も

東日本大震災の震源域の東側で、マグニチュード(M)8級の巨大地震が発生する可能性が高いとして、複数の研究機関が分析を進めている。日本海溝の東側で海のプレート(岩板)が引っ張られる力が強くなっているため、早ければ1か月以内に津波を伴う地震が再来する危険がある。

「早ければ1か月内」

M9.0の東日本大震災は、押し合っていた海のプレートと陸のプレートの境界面が破壊されて起きた。そのため周辺の地殻にかかる力が変化し、東日本全体で地震が誘発されている。京都大防災研究所の遠田晋次准教授(地震地質学)は全地球測位システム(G

複数専門家が指摘



PS)の測定データから、海のプレート内部で引っ張られる力が強くなっていることを突き止めた。明治三陸地震(1896年)の37年後、昭和三陸地震を起したメカニズムと共通しているという。「今、昭和三陸規模の地震が起きると、仙台市で10以上の津波が押し寄せる計算になる」と言う。